

## 学びのデザインシート(授業前)

## 主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【国語】

## 1. 対象(実施を想定する学校・子供の実態の概要)

本校の子供たちは素直だが受け身の姿勢が強い。自ら学ぶ姿勢の育成が課題だと考え、「自ら問いをもち解決する力」を育てる授業づくりを校内研修のテーマとして、国語科を窓口に取り組んでいる。本学級の子供たちは説明文、「こまを楽しむ」で「はじめ・中・おわり」の文章構成や問いと答えの関係を学習してきた。叙述を基にイメージしながら文章を読み取るために、自分の言葉に置き換えたり本文中の言葉を使って要約をしたりする練習を行ってきた。本単元では、自分の文章に生かすことをゴールにし、筆者の工夫を捉えることで、事例の順序性や分類の仕方などの段落相互の関係に着目し、文章構造を理解する力を伸ばしたい。

## 2. 単元(題材)名「すがたをかえる大豆」(全15時間)

## 3. 単元(題材)で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	中心文や接続語、文末表現などに着目し、段落相互の関係を捉えながら筆者の説明の仕方の工夫について理解することができる。
思考力、判断力、表現力等	目的を意識して、中心となる語や文を捉えて要約し、段落相互の関係を考えながら、文章の内容を的確に読み取ることができる。
学びに向かう力、人間性等	言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

## 4. 本時の目標

すがたを変える食品の事例を並びかえる活動を通して、事例を分かりやすく説明するための順序の工夫について考え、構成の意図を捉えることができる。(思・判・表)

## 5. 授業展開【本時・単元(題材)】

<b>解決したい課題や問い</b>
どんな順序で説明すれば分かりやすいだろうか。

<b>考えるための材料</b>	
・「すがたを変える魚」「すがたを変える米」「自分のオリジナル食品」の3つの中から選択し、実際に分かりやすい順序に並びかえる。	・「接続語」「おいしく食べる工夫」「すがたを変えた食品」「時間」「形」の5つの視点で表にまとめたものを提示する。(前時まで表にまとめておく)
想定される活動	
・本時での学びをもとに、時間や形などに着目し、理由をつけて応用問題を並びかえる。	・それぞれの視点で、段落が進むごとにレベルアップしている様子が可視化できる。

<b>対話と思考(対話を通じた協働的な問題解決のプロセス)</b>
<p>※意見の交流の時間をとり、どの子も自分の意見を伝えたり友達の意見と比較したりする。→全体で共有をする。→それぞれの意見の共通点を探していく。</p> <p>※「工夫のすごさが高まるように、また、さらにという順序を表す言葉を使っていると思うよ！」 「順序を表す言葉を使うと順序も分かりやすいよ!→言葉もだんだんと難しくなっている!」 「作る時間もだんだん長くなっているね!」 「大豆の色や形もだんだん変身している!」 「簡単な作り方から難しい作り方になっている!」 ⇒共通点は、簡単なものから難しいものへ変化しているから、それが工夫になるんじゃないのかな。</p>

<b>学習の成果(予想される子供のあらわれ)</b>
簡単なものを先に、変化が大きいものを後の方に載せると説明が分かりやすくなる。